法　務　省　ヒ　ア　リ　ン　グ

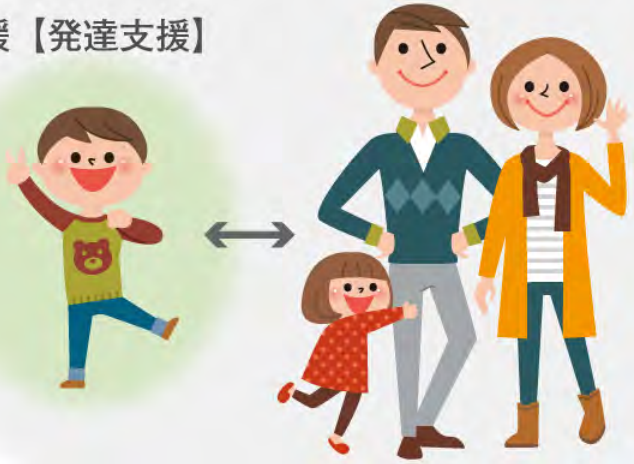
障害児の子育て支援

社会福祉法人麦の子会
むぎのこ児童発達支援センター
北　川　聡　子

児童発達支援センター

父母・きょうだい等への支援【家族支援】

子どもへの支援【発達支援】



コミュニティアプローチ【地域支援】

発達支援
適切に配慮された子育て

Developmental Support

-乳幼児期の発達支援 -

すべての子どもに必要な事

・乳幼児期は、養育者との愛着関係の形成が大切

・障害のある子どもも同じ。

ー安心感信頼感の基盤ー生の土台

・基本的な信頼感

ー大人がいいことやってくれる人

ー生理・感情一致

・医療との連携は必要であるが、子育ての支援

乳幼児期

「一人の赤ちゃんというものはいない、
赤ちゃんはいつもお母さんの一部である」
（ウィニコット）

・お母さんの安心安全赤ちゃんが取り入れていく。
・お母さんのケア・仲間との出会い
・家族支援が大切

福祉型児童発達支援センター

教育支援部門「放課後等デイサービス」

【プレイ】
定員10名
１年生

【むぎのこ】
定員10名
１年～高２

【ライオン】
定員10名
１年生

【ライラック】
定員10名
３年生

【ジャンプレッツ】
定員10名
小５～中学生

【大通教室】
定員１０名
小学生

【ピッピ】
定員１０名
６年生

【ユスタバ】
定員１０名
２年生

ブレーメン館
H２７年１２月７日

【ヨ　シ　ア】定員２０名　２年生

【シーランチ】定員１０名　小１～小６

【野の花】定員１０名　５年生

【ブラックベリー】定員１０名　中高生

【グリーン】定員20名　４年生

朝から開所の事業所

【チェリーブロッサム】定員２０名

【スカイブルー】定員２０名　小１～６

【トゥモロー】定員１０名　小１～６

【プログラム】

時間	内容	療育のポイント
14：00	①集合、宿題	・学習
15：30	②ミーティング おやつ	・あいさつ ・活動説明 ・社会スキル練習
16：00	③設定課題 ・運動活動 ・制作活動 ・交流活動	・自己主張 ・行動調整 ・コミュニケーション ・指示理解
17：00	④帰りの会	

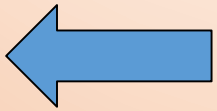
思春期の支援ー放課後等デイサービスの活動
大人への移行期 -不安・葛藤

親離れへの挑戦
大人になるにあたっての
大切なことは、友達、
仲間の存在、第3の大人

成し遂げるよろこび
友達・大人に褒めて
もらうよろこび

孤立をふせぐ
仲間の存在
自尊心、
自己肯定感を育む

障害児の生活の豊かさ・充実を求めて



プラス思考の療育

活動・生活を楽しむ

子どもの「出来そうなこと」・「出来ること」を
見つけて強めていこう！

1. 笑顔を多くしよう（⇒人生を肯定的に）
2. もっとしたい、もう一度したいと思う経験を
（⇒明日を拓く今日の喜び）
3. 達成感(できること)を増やそう（⇒成長・発達として）

いま、何を優先するのか

障害児の子育てでは常に問われる

例①歩行か移動か
②音声言語かコミュニケーションか
③お金の計算か買い物か等々

できないことを目標にしない

できそうなことを見つける

⇒ 潜在能力の開花

療育とは適切に配慮された子育て

適切に

対象　の　特性 を　　把握している
(障害児) (特別な困難)　(理解)
(得意・苦手)

配慮された
子育て

適切な育児(介入・アプローチ)
この子に
いま、何をしたら最適か
どんな介入が適切か
どう接すれば適切か

お母さん、
家族を支える。

なぜ家族支援が大切なのか

子どもを救うためには、家族が救われなければならない

（ネウボラ保健師の言葉）

お母さんの手記

つらかった。何度も死のうと思った。育てていかなければならないという思いと、この子がいなかったらという思いが交互に起きた。

夢であってほしい、朝目覚めたらお医者さんが来て何かの間違いだったと言ってくれるはずだ。

なんで私なのつらい。どうやって生きてけばいいの。生きていけない。でもかわいい。幸せ感じるはずだったのに。

私の人生も終わった。

両親にも悲しい思いをさせてしまった。

子どもの障害とお母さん自身のケアニーズと
重なり、虐待のリスクが高まることもあるー
心理・生活支援が必要

心理支援、グループカウンセリング

・グループカウンセリング
(幼児期週一回)
・個別カウンセリング
・お母さんピアカウンセリング
・自助グループ
・トラウマケア

どんな気持も大切な気持ち
悲しいの時は、泣いていい。
嬉しい時は、喜んでいい。

24時間緊急携帯

育児の

大変さを支える

【生活支援】

ホームヘルパー

（アウトリーチ）

社会的養護の
必要な子の支援

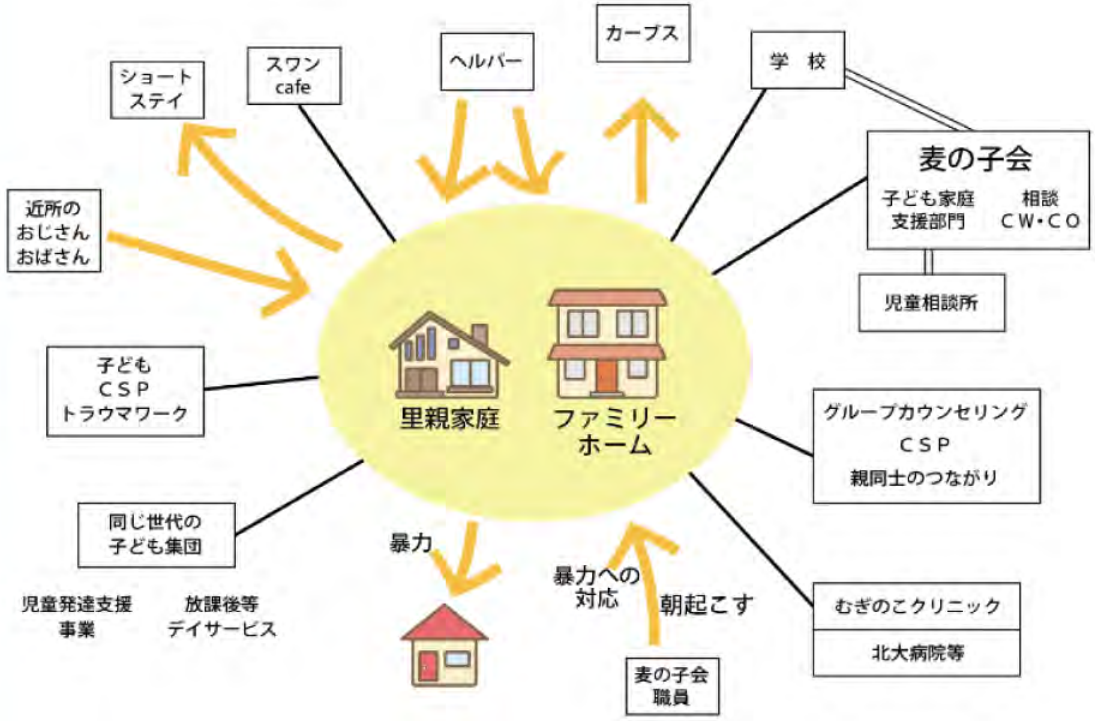
・里親ファミリーホーム（里親２組）
定員６名×２＝12名
・里親２１組、子ども３９名
一時保護委託５名

乳幼児～高校生まで：ほとんどが発達に
心配のある子ども

・被虐待児　・知的障害児
・自閉症児　・発達障害児
・摂食障害　・愛着障害
・施設で不適応の子ども等

地域住んでいるいろいろな
困り感のある子どもと家族と共に

里親さん
ファミリーホーム
への支援



体罰の影響

- １．体罰を受けて育った人は、自分の子どもに体罰を与える。
- ２．体罰は、反抗的な子どもを生み出す。
- ３．体罰を受けて育った子どもは、道徳心が低く、より攻撃的に育つ。けんかやいじめ、反社会的行動をするようになる傾向もある。
- ４．体罰を長期的に、またより厳しい体罰を受けて育った子どもは、将来うつや不安症、薬物依存などに陥るリスクが高い。
- ５．体罰により親子関係の質が低下する。
- ６．体罰を受けた子どもは、自らの家族伴侶恋人に暴力を振るうようになる傾向がある。
- ７．体罰を受けた子どもは受けていない子どもに比べて、暴行され重症を受けるリスクが７倍もある。（日本行動分析学会）

むぎのこで用いている

ボーイズタウン コモンセンスペアレンティング

- 暴力を使わず子どもを育てるスキル・技術を親に教えることで、虐待の予防や関係性の回復をめざします。愛着・行動理論の背景をを元に、効果的にしつけるスキルを視覚教材を用いてロールプレイやモデリングによって学びます。

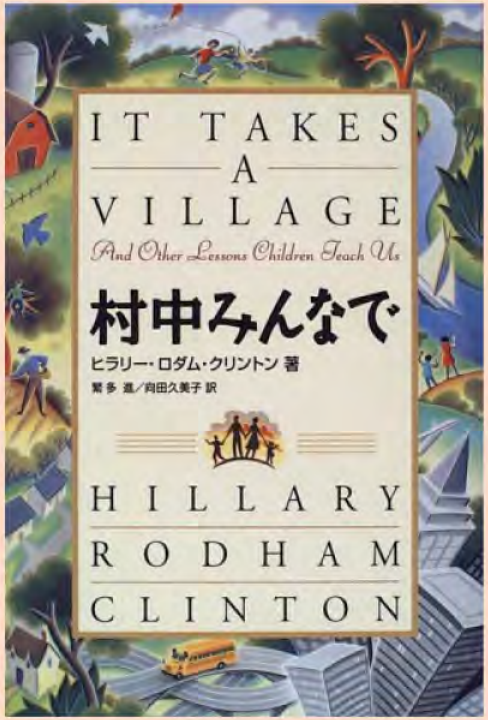
- このプログラムの効果は、平成29年度子供子育て支援推進事業調査研究「保護者プログラムの充実に関する調査研究報告書」に記されている。

- 保護者だけではなく、職員全員が初級指導者以上の資格を取って、子どもへの教育法として用いている。

行動は学習されたもの（悪い子はいない）

- 子どもの適応行動を促す方法
- A.きっかけ（先行事象）→　B. 子どもの行動→ c .結果
- 向社会的なスキルを教える
- 結果を用いる。（将来に影響する）「ありがとう」or「珍しいね雨降るね。」

- 好ましくない言葉かけ→好意に満ちた言葉かけに変える。
- 「前も同じことしていたね」→「〇〇まではできているね。次は□□を頑張ろう」
- 上手の褒めるテクニック
- 見通しがないと不安になるので、わかりやすい言葉かけや視覚的支援・構造化などを大切にする。
- （平成２７年通常学級における特別支援教育の視点を生かした「実践事例集」北海道教育委員会）



一人の子どもを育てるには、
村中の大人の知恵と力と愛が必要

ーアフリカのことわざー